

平成30年度第6回 鹿島区地域協議会 会議録

<地域協議会の日時・場所>

- 1日 時：平成30年8月21日（火）
午後1時30分～4時45分
2場 所：鹿島区役所大会議室

【 会 議 録 】

1 開 会

○事務局

地域協議会成立要件の確認

委員数15名

【出席委員数】 11名

遠藤賢明、加藤栄伸、多田和夫、松野豊喜、佐藤知子、西内千恵子、
大内彰、江袋大輔、小倉聡美、星ちづ子、濱名美代子

【欠席委員】 4名

櫻井義晴、森和浩、太田睦美、西みよ子

上記のとおり、委員の過半数の出席のため成立していることを確認します。

2 会長あいさつ

3 区役所長あいさつ

4 会議録署名人の指名

遠藤賢明会長が会議録署名人に多田和夫委員と江袋大輔委員を指名。

5 議事

(1) 報告事項

- ①南相馬市公立学校適正化計画（案）をパブリックコメントに諮ることに
ついて

○鹿島区地域振興課長

これより議事に入ります。進行は会長の遠藤会長、お願いいたします。

○遠藤会長

報告事項に入ります。（1）報告事項 ①南相馬市公立学校適正化計画（案）をパブリックコメントに諮ることにについて、教育総務課より説明を求めます。

○教育総務課長

資料に基づき概要説明

○遠藤会長

担当より説明がありましたが、質問等がありましたら挙手のうえ発言をお願いいたします。

○教育総務課長

会長、1点だけ補足させてください。

パブリックコメントでございますが、9月5日から29日まで実施する予定となっております。委員の皆様からも、この期間に本編等ご確認いただいて、何か意見があればお願いします。

○遠藤会長

他に何か意見はありますか。

＜特に発言なし＞

○遠藤会長

では意見がないようですので、次の事項に進んでよろしいですか。

＜委員より異議なしの声あり＞

○遠藤会長

異議なしとのことですので、次の報告事項に移ります。

では② 今後の南相馬市仮設焼却施設と処理計画につきまして、環境省福島地方環境事務所より説明を求めます。

○環境省福島地方環境事務所減容化施設整備課

②を資料に基づき概要説明

○遠藤会長

ただいま②について説明がありましたが、引き続き関連がありますので、質問につきましては次の報告事項③ 埋設有害鳥獣イノシシ等の焼却施設について生活環境課より説明を受けてから、合わせて質問を受けたいと思います。それでは、③の報告事項 埋設有害鳥獣（イノシシ等）の焼却処理について、生活環境課より説明を求めます。

○生活環境課長

③を資料に基づき概要説明

○遠藤会長

ただいま担当より説明がありましたが、報告事項②及び③について質問等ありましたら、挙手の上、発言をお願いします。

○松野委員

資料3でイノシシの焼却という説明がありましたが、猟友会の話を聞くと、サルも大変多くいて、被害があつて、サルについては何頭って規制して獲っているんだという事を聞いたのですが、このサルの焼却についての説明はないのですが、例えば、サルは獲ったのをただ埋設しているということで理解していいのでしょうか。

○生活環境課長

サルについても有害鳥獣っていう枠に入っておりまして、この「イノシシ等」となっており、有害鳥獣に入っております。当然今、埋設されている中にサルもございますので、イノシシと同じく処分させていただきます。今建設しております有害鳥獣の焼却施設がありますが、そちらにおいても有害鳥獣となっておりますので、イノシシに限らず、有害鳥獣と言われるサル等についても、焼却することができる予定でございます。

○松野委員

あくまでもイノシシ等となっているので、サルも含んでいるという理解でよろしいですね。わかりました。

○大内委員

今、こういった有害鳥獣を捕まえるというか、いわゆる猟友会等をお願いしているのかと思いますが、大分高齢化が進んでいて、やる人が少ないと聞いておりますが、その辺りはどうですか。

○鹿島区産業建設課長

確かに、数は減っているところでございますが、市の方で何とかお願いしまして、協力いただいているという形でございます。

○加藤副会長

今後のスケジュールですが、このスケジュールで終わるのは平成 32 年 3 月までで終わりということですか、それともずっと引き続き期間を長くしてやるという理解でいいですか。

○環境省福島地方環境事務所減容化施設整備課

南相馬市の仮設焼却施設の運営自体が来年度で終わる予定になっておりまして、焼却自体は来年度中に完了ということになります。

○加藤副会長

それでは、来年でイノシシは終わりということですか。

○生活環境課長

今あったスケジュールで、最終的には平成 32 年 3 月ですので、それに間に合うように努力するという事で、埋設されているものについては同じく平成 32 年 3 月までに、この焼却炉がある間に処分できるように努力してまいりたいと考えております。

○加藤副会長

これから新しくイノシシを捕獲したら、処分するのはどこで焼却するのですか。

○生活環境課長

先ほど少し触れましたが、今原町区の小沢の方に新しく有害鳥獣の焼却施設を建設しておりますので、新たに取れたものについてはそちらで、これが平成 31 年の 4 月稼働予定でございますので、それ以降についてはこちらで、捕獲されたものは処分するという予定になっております。

○遠藤会長

ほかに何か質問等ありますか。ありませんか。

<特に発言なし>

○遠藤会長

発言がないようですので、次の事項に進んでよろしいですか。

<委員より異議なしの声あり>

○遠藤会長

では、報告事項④ 9月補正予算の概要について、担当より説明を求めます。

○鹿島区地域振興課長

資料に基づき概要説明

○遠藤会長

担当より説明がありましたが、質問等がありましたら挙手の上、発言をお願いします。

ちなみに参考までにですが、どのぐらいの土壌がそこに埋設しているか、各小中学校でわかりますか。

○高野鹿島区地域振興課長

各小中学校に埋設してありますが、ただ、量については、その当時どれぐらいその表土を剥いだかというところまでは数字的には押さえておりません。ただ、埋めてある場所を確認しているということです。そこからすべて除去するということでございます。すみませんが数字は押さえてないということです。

○西内委員

その土はどこに処分するのですか。

○鹿島区地域振興課庶務係長

現在の段階ではまだ最終処分場等が確保されていないため、近隣の各行政区さんで準備していただいている仮置き場の方に一旦搬出するという事になってございます。

○遠藤会長

他にありますか。

<特に発言なし>

○遠藤会長

では、発言がないようですので、次の事項に進んでよろしいですか。

<委員より異議なしの声あり>

○遠藤会長

では異議なしとのことですので、ここで次の事項に進む前に、一旦休憩をとりたいと思います。ただいまから10分程度、14時50分から再開した

いと思います。暫時休憩といたします。

<休憩>

○遠藤会長

では続きまして、協議事項に入ります。(2) 協議事項 ①鹿島区地域ビジョンの改定について、担当より説明をお願いいたします。

○鹿島区地域振興課振興係長

これまでの協議等の結果を基本に、事務局にて文言の修正や事業を少し加える等して資料5及び資料6にまとめ、これから最終形に向けた加除修正を行なっていく、特に重点プロジェクトについては市の復興総合計画の中でも特に推進すべき事業と提言するために付け加えたものの他に、漏れている事業等について検討するよう、進め方を説明。

○小金澤氏

事務局でまとめた体系図に対し、改めて議論するのではなく確認し、不足する事業、追加する事業、不明な点等に意見を出し合って、最終形にまとめるということで、一柱ずつ意見を聴取して、まとめをしていくことを説明。

○小金澤氏

1柱目としまして、「地域資源を活かす産業と交流のまち」ということで、資料の1番左、こちらに当初の意見に加えて、今後総合計画に反映するという形もありますので、その辺を考慮しながら、円滑に事業が推進できるような形で再整理しておりますので、再度ご意見いただければと思います。今日はどちらかと言えば確認という形になるかと思います。基本的には皆様から頂いた意見の再整理でございますので、あとお気づきの点でちょっと追加があったなとかいうところがありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

商工業の再興、農林水産業の再興、それから観光、観光に関しましては後ろの方でまた類似した議論があるかと思いますが、そういった観点から取りまとめていただいております。重点プロジェクトの方が比較的重要な要素があるということで、事務局から特に行政がやるべきことという紹介がありましたが、皆様が意見として挙げられたものを含めて、これからのまちづくりというのは住民主体、むしろ住民主役で、継続性を持った事業を考えていく中でどうしても皆さんの力が必要となってまいります。ご存じのように行政も、財源と職員の人手不足ということもあり、官民連携をしていかないと持続可能なまちづくりはできません。その辺りをぜひ皆さ

んが中心となって積極的に、言葉だけでなく、行動の主体を皆さんの方でアクションしていくことによって、まちづくりの形となってまいります。例えば海岸地区の美しさのPR、これを具体的にどうしていくかとか、こんな提案があるとか、それから6次化の加工の話ですが、前回は梨のジュースやいろいろご意見がありましたが、こういったところをもっともっと消費者との間に立って、量がある程度確保しないと流通に乗らないとか、一方では商品の質、商品価値を高める意味で生産を少なめにするというやり方もありますが、今の時代はある程度量がないと、観光に来た方々もその場で飲めるとか、食べられるとかでないと販売、名産につながらないことになります。やはりある程度生産量を確保するような仕組みも考えていかななくてはいけない、そんなところがあるかと思います。

あと皆様に関係しますが、短期事業の中に、2点目で民泊の支援事業というのがありますが、今、新聞等で民泊の問題がいろいろ出ておりまして、当然、賛否といいますか、メリット・デメリットがございます。安全性や防災性の問題、外国人の使い方によって地域で問題が起きる等、いろんな問題もありますが、ただ、やはり交流人口を増やす、活性化につながるという面でのメリットが一方ではありますので、そういったところも地域としてどうなのかという意見もいただければと思います。なんでも結構ですので、ご意見いただければと思います。

○遠藤会長

この1柱目の中にある海岸地区の美しさのPR、また街なかおもてなし事業の充実というように、事業の内容によっては場所が移るところはあると思いますが、海岸線の場合は海岸ですから、これは港の充実等々と併せてタイアップして事業になるかと思いますが、街なかの場合はどこを拠点にして、そういうまちづくりをつくって行くのかが1番気になるのではないかなと思います。当然ながら6次化で最終的な商品の、流通販売ですから、別にネットでも販売できると言ってしまうと店舗は要らないことになってしまいますけど、実際そういう店舗がどこにあって、それは1番売れるところ、商品が必ず売れるよという場所も選定しなければならないと思いますが、それはどうなのでしょうかね。

○小金澤氏

例えば、海岸線の美しさ、街なかのおもてなしに関するもの、これらはこれから検討ということでしょうか。

○鹿島区地域振興課振興係長

こちらについては海岸地区の美しさということは前回までで、協議会でもいろいろ意見が出されていまして、鹿島区の海沿い、特にあの風力発電の4基の風景がほかにはない、この辺にはないということもあって、ぜひ

それも含めてPRしたらどうかという意見があって重点の方に挙がってきました。確かに短期になっていて、まさにこれからどういうふう売りしていくのか、やっぱり鹿島は海が震災前からずっと綺麗だった上に、今、風力発電があるので、そちらも合わせてPRできたらいいのではないかと意見だと思いました。合わせて行政だけではなくて、住んでいる人たちがどんどん外にPRしていくのかなというのもあったので、あえて公共性と言わなかった部分ではあります。PRをどのようにしていくかというのは今後で、やはり鹿島の目玉として進めていきたいと思いますということで、重点プロジェクトに挙げさせていただきました。

街なかおもてなし事業については、先ほど皆様にお配りしました、今年開催するみなとまつり会場にバスでセデッテかしまからご案内する、その時に鹿島の見どころ、名所を周り、鹿島はこういうところがありますよということを、いろいろな方にPRしたいという、初めての取り組みでもあります。これを皮切りに、たくさん人が来るセデッテかしまから、まず街中へ誘導する、他の地域の人から見ると珍しいなあという意見ももしかしたらあるのかなと思います。前回までで、小金澤さんにいろいろお話ししていただきましたが、実は外の人から見ると貴重なところがあるというのをまず発見してもらうのが第一かなと、それが先程申し上げた海岸地区の美しさなのかもしれませんし、漁港でのいろいろなお土産であるかもしれません。今後、少しずつ実験的にやりながらも、PRを重ねていきたいということで、短期的になっておりますが、これからいろいろ実績を積んでいく中で、鹿島のいいところをPRし続けていければなと思っているところでございます。

○小金澤氏

そうしますと、いわゆる着手はすぐにでも始めることができる、ただ事業はもしかしたら継続していく中で段階的に整備していくというイメージなのではないでしょうか。今、振興係長からお話が合ったように、全国でいろいろなまちづくりをしている中で、やはり地域のすぐれた景色とか、景観とか、資源とか、地元の方が認識しているものと外の方が認識しているもので違う場合が結構あります。それらが共通すると一番いいんですよね。例えば沖縄でいうと、沖縄の方と、沖縄以外の方々のイメージで大体一致するんですよね。観光資源とも一致してます。ところが、例えば三重県の資源って何だろう、そうするとふっと出てこない場合がありますよね。伊勢とかありますが、三重県の、もしくは岐阜県のとか、意外とイメージの湧かないところというのは、広報の力もありますし、地元の方々が感じているものと、外の方々の感じ方が違うというケースが結構ありまして、この辺りは皆さんがいいと思う資源を改めて見直してみて、そこに観光資源的な、どうしても地域資源という話の論点になるのですが、商品価値があるかどうかということを外の人間の目と合わせて議論するという場が、今後これ

を継続する中での一つの手法として、ワーキングとかそういったものを立ち上げて、皆さんで自分たちの財産・資源はなんだろうかと、改めて見たときに、海岸線に限らずいろいろあるかと思います。それらを守り育てる中で商品価値として、時にはブラッシュアップして、少し着飾ったりしながら、対外的にアピールすることによって集客力を増す、それが商業とか工業とか農業とかに結びつく場合もありますので、そんな産業構造の再構築というものが、今後こういった作業のワーキングの中から構築していくこともできるのかなと、今お話を伺っていて感じました。そのために皆さんのまちづくりにおける、意識とか思いとかは非常に重要であると思います。

そろそろ次の柱に行かなくてはならないのですが、ここに挙がっていますキーワード的なもので、何かお気づきの点がありましたらご意見いただけますか。

○鹿島区地域振興課振興係長

先ほど会長からありました6次化の件については、ずっとこの改訂版の協議を去年からずっとやってきた中で必ず出てくるテーマでもありました。こちらは行政でやるべきものの部分もあり、地域、それから各業界の協力も得ないとやっていけないということもありますが、鹿島として6次化を一生懸命やって、少しずつではありますが進んでいることもありますし、この件については載せたところでございます。

○小金澤氏

いずれにしても、重点プロジェクトにも挙げていただいておりますので、これからも確実に、何らかの形で立ち上げていくということで、鹿島区の地域資源を生かすという、そういった作業がこれから始まるということの認識でよろしいでしょうか。

それでは2柱目に移らせていただきます。「健やかに安心して暮らせるまち」ということで、これも先ほど事務局の方から、行政として中心的にやらなくてはいけない部分と、それから皆様から挙げられた部分、そういったものがここに整理されておりますので、これにつきまして、重点プロジェクト以外の話も含めてご意見、ご感想、それから追加すべきようなものでお気づきの点がありましたら、お話いただきたいと思います。

○鹿島区地域振興課振興係長

先程説明しましたが、我々がまとめていた中で、実は2番の「健康づくりの推進」のところが少し薄くなっております。意見が少なかったということもありますが、例えば、健康づくりを鹿島の人たちが自らやっているというような情報がもしあれば、意見をいただければと思います。それか

ら、先程重点プロジェクトの出産祝い金等の充実というところで、実は前は第1子からの出産祝い金交付ということで挙げていただいたのですが、出産祝い金等と、言葉を丸めた形になっております。これはすでに市の事業で、子供が生まれると赤ちゃんを育てる用品の支給を行っておりますので、それらも含めて、出産祝い金を第何子で幾らということが提案されてくるとも想定して丸めた形にし、皆様の要望があって行政が取り組むべきものかなと思っておりますが、少し中長期的に、長いスパンで考えていきたいなと考えていることで、入れさせていただきました。

○小金澤氏

これは、考えが減少したわけではなくて、表現が変わったということですね。この1点目の遊具の点検とか修理というのは、ある程度専門性を持った方がする場合と、目視でも明らかに劣化していることを確認するとかありますが、これは住民の方と行政で一緒になって、他の事例で、よく道路の路面状態等を、いわゆる民間のパトロールという形で宅配の事業者さん等といろいろ協定を組みながら、道路の問題点に何か気づいたら連絡いただくということで道路管理者がすぐに整備に入る等、そういった動きもあるのと一緒に、やはりこれについても情報をレスポンスよく入手できるような仕組みがあると、恐らく皆さんとしても動きやすいだろうかなという気がします。やはり近所にお住まいの方々が、日常的に目を向けてくれるという協力ができない部分でもあると思うのですが、結構こういった問題というのが起こっているのですか。

○鹿島区地域振興課振興係長

鹿島区内の公園等についても遊具がだいぶ古くなっているものも確かにあると、いろんなところでよくそういう声は聞いておりますが、当然どうしても先立つものがないとなかなか直せない状況ですが、ただ、点検は常に住んでいる人からの目で見てもらおうということは大事なかなという考えでおります。

○小金澤氏

最近は維持管理がなるべくかからないような遊具とか、むしろ遊具がない、フリーに使える公園というのが意外と注目されております。いわゆる大人の感覚で子供に必要だろうと思ってつくった遊具は必ずしも子供が喜ぶとも限らない、むしろその中に、自由にレイアウトさせた方が子供の創造性にプラスになるということで、維持管理も含めて、なるべくその問題の無いような、それでいて想像力が湧くような、そんな公園づくりもありますので、今後徐々に、いきなり全部新しい器具に換えるわけにはいきませんので、維持管理を別に手を抜くというわけではないのですが、やはりその維持管理をしなければいけないほどの必要性の高さといえますか、利

用頻度の高い遊具かどうかというものもありますので、地域の方々が、更新するときにはそういった議論もされていくとよろしいのかなと思います。

○西内委員

子育てに入ると思いますが、ローラースケートというかスケボーとか、それを道路とかでやっているのを見かけます。それで今は交流センターの前に駐車場がありますが、そこでやっている方が多いです。いつも怒られているようですが、そういうところではなくて、例えば、河川敷に空いている場所があるので、あそこを整地してもらってそういうことを出来ればいいかなと思っていました。それを含めてもいいのかなと思います。

○小金澤氏

それは実際に、そういう公園的な使われ方のスペースというのを整備しているところもあります。今度のオリンピックも、正式な競技になっているんですけど、例えばこういう階段の手すりの上にポーンと乗って、見ていると怖いですが、正直なところ。ああいうところに乗ったり、ベンチの上をポーンと飛び越えたり、そういうのをあえていろいろ作って、そんなにお金のかかるものではないもので作って、子供たちが集まってやっています。いろいろ見方はありますけどね。そういったところにたむろするのではないかとありますが、逆に与えられて、公にされれば、おかしいことになりにくいんですよね。無いから、変ところに隠れて何かしたりとかありますので、今後、地域の中で、皆さんの必要性を含めて事業化できるものがあればよろしいかなと思います。スペースがまず必要である、それからちょっとした障害物みたいな、安全性に配慮したものができればそれほどお金のかかるものではないという。恐らく皆さんから挙がってきているものというのは、各分野とかカテゴリー別に、将来的にというか近い将来、やはり意思のある方々が集まって、いわゆるワークショップ、ワーキングを作って、事業化に向けたレイアウトを皆さんでプランを立てることが必要です。そうすることによって、それを行政に投げかけると、恐らく皆さん、もう知らないと言えないはずですから、事業化する早道であるかと思います。こういった場をどんどん活用して、その意見を集約して、本当に必要なものかどうか議論していただいて、それからぶつけていただくと、非常にいい形になるかと思っています。

○江袋委員

(1)の子育て環境の設備の中で、遊具の点検・修理とありますが、点検・修理だけでなく、遊具がすごく錆びてしまったものの撤去等も検討して頂けないですか。私、遠くから見ていてだけで余りその遊具に触れたりしていないのですが、余りにも古く老朽化していて、逆に危ないのではないかなというのは街中でも見かけたりしたので、それも検討項目でお願い

いしたいです。

○鹿島区地域振興課振興係長

点検及び修理と言うだけでは少し足りないので、ちょっと言葉をですね、撤去も含めてどうするかということで変えたいと思います。今すぐ、ではこうしましょう、例えば、点検・修理及び撤去なのか、それともその遊具の、何かいろいろ整備ということも全部込み込みにするのかということもあると思うので、それらも含めてここは検討させていただければと思います。

○小金澤氏

先日、イタリアで橋梁が崩落しましたが、やはり今の時代というのはもう新しくものをつくりたいではなくて、あるものを少しでも長く持たせるということで、いわゆるそのコストを下げていくという時代ですので、実際、公園も今ご指摘あったような話で、まさに点検、そして更新していくという時代になっていますので、係長がおっしゃったように、表現の問題でもよろしいかと思います。例えば「管理」とか、それから点検の中にも、その点検の結果として、更新するべきか、もしくは撤去すべきかということが入ってまいりますので、それは表現で、場合によっては点検の後ろに更新、更新というのは新しく作り直していくとか、それから更新・撤去とか、そういった形で入れてもよろしいかと思います。おっしゃるように、点検した後どうなのかが見えませんので、文言を入れていったほうがよろしいかと思います、よりわかりやすく。

他にございませんか。

それでは次へ進めさせていただきます。最終的にもう一度全体で意見が出てまいりましたらお受けしますので。

3柱目、「安全で災害に強いまち」ということで、個人的には非常に重要なテーマと思いますが、表の空欄が多いということで、なかなか意見がデリケートの部分もあったり、難しいものもあったりし、実際その安全や災害に強いというところを、住民の中でどこまでできるかという話も恐らくあるかと思います。重点プロジェクトに自主防災組織の話ですとか、原発事故に伴う格差の解消、消防団の充実という事項が挙げられておりますが、これに関連するもの、それからそれ以外でお気づきの点がありましたらご意見いただきたいと思います。

○鹿島区地域振興課振興係長

すみません。実は先日の台風の時の避難所の関係で、区長会でもお話がありました、今、鹿島区で避難所指定がされているところが、水害の場合ですが、実はここからだと川渡って、山側にしかない、そこも含めて、

本来であれば、私たちがきちんと検討しなくてはいけないのかなと思いますが、どうしても公的施設が川の近くにあったり、国道6号線の海側に集中してしまっていて、なかなか避難所の指定が難しいような状況になっております。これは行政でやるべきものだと思いますが、やはり避難所設営の検討などをどこかに入れた方が、防災体制の充実の中で、避難先の確保とは一応ありますが、高齢者のための対策もさることながら、避難所の部分も入れ込んだ方がいいのかなというふうに考えました、まさに今月の台風の件があって、何件か問い合わせの電話やお叱りの電話を受けている関係もありますので、これについてご意見いただければ、ここに入れ込みたいなど考えております。

○小金澤氏

今、事務局の方からご提案ありましたが、避難場所といいますが、そういったところのご意見ございましたら。どうしても避難場所というのは、皆さんが現在お住まいのところから見て、うちはあるという方と、うちの辺りは確かに川を渡らなければいけないとか、皆さんの住まいによって、多分意見が違ってくると思いますが、非常に重要な話かと思います。最近、近年の温暖化も含めて、いわゆる線状降水帯はどこでいつ発生し、災害が起きるかわかりません。3.11のような大規模な災害が二度と起きてほしくないのですが、日常的に自然災害というのがいつどこで起こるかという、例えば、九州かと思ったら広島があって、もう本当にわからないような状態になってきておりますので、自らを守るのはまずは早目の避難です。ところが、避難したくとも避難する場所が遠いとか、避難場所自体が安全性の問題がありそうだなということになってきますと、やはり考えていかなければいけないところもありますので、皆さんがお住まいのところから見て、現在の避難所、これも当然、地域防災計画、最近ですと地区防災計画という言葉はありますが、その地区地区において、皆さんが日頃から防災に対する意識、そういったものを醸成するような環境をつくっていかないと、行政の方から避難勧告を出しても、今回の災害でもそうでしたが、自分は大丈夫だろうということをどうしても思って、恐らく私もそんな感覚を持ってしまおうと思いますが、やはり日常的に、訓練を含めて教育されていくと大分変わってくるのかなと思いますので、ぜひ皆さんの生活空間を見ていただいて、問題点がありそうでしたら、ぜひご意見をいただいて、それを事務局のほうでご提案を受けて、ぜひまた協議、議論していく場ができればいいのかなと思います。皆さんのご自宅周りは大丈夫ですか。問題点ですね。

○大内委員

ハザードマップを先日ちょっと見ましたが、実際避難する場所が上真野小学校になっているんですよ。私、町内に住んでいまして、途中橋を渡っ

ていかなくは行けないので、かえって危ないのではないかなと思うんです。従って、入れていただいた方が、あるいは周知していただいた方がよろしいかなと思います。

○鹿島区地域振興課長

今、ハザードマップの話が出ましたが、鹿島はこの町内が全部ハザードにかかっています。ですので、危ないので早く逃げてくださいということしか今のところ言いようがないですし、真野川を渡るとすれば、どこかの橋を渡る以外は、6号線を遠回りして山を通らないと上真野には行けません。それで、今避難所は2カ所です。桜平山の上の改善センターと上真野の小学校、もしくは上真野の前川原体育館、角川原研修センター、上真野の幼稚園と保育園なんです。八沢は、八沢小学校にしたいのですが、後ろが崖になっていて、崩れてくる可能性があるので指定できないとか、街なかに公共施設はありますが、公共施設がこのハザードにかかっているので出来ないということで、どうしても、この真野川を越えていかななくてはならないという状況があるので、今お話があったように、どこかに作りたいたいのが山々であります。そういう中で見直しもやっておいて、逆に言うと、この町部でも、高い建物とか何かつくるような方策を何か考える必要があるのかなと我々も考えているところです。もう一つは、早目に周知するように、ハザードマップを、今でいうと3年か4年前に配ったきりなので、それを定期的に住民の皆さんに知らせるとか、そういう方法で安全を確保していく方法しかないかなということがあります。真野川を早目に渡っていただいて、安全なうちに超えて行くしかないかなというのも考えているところで、痛しかゆしというか、避難所を作るのにもなかなか難しいというのが一つあるところです。ですので、皆さんのご意見があった中で、どういう避難所を設ければいいか、どの程度の雨だったら大丈夫な避難所なのかというようなお知らせの方法を見つけていくしかないかなというところで、今考えております。我々もいろいろなご意見を受けるので、避難所は必要だという認識は持っています。ただ、その安全性からいうと少し怖いなということもあるということをご理解をいただければと思います。

○小金澤氏

全国的に私も、こういう防災の仕事等にも携わっておりますが、やはり最近なんですね、こういった意識がどんどん高まってきたのは。今おっしゃったようにどんどん精度を上げて見直していく必要があります。具体的にこの地区の人はどこに一時避難したらいいか、避難の仕方として、まずは一時避難で安全性を確保すること、それから、あつては困るのですが長期化することがあったらまたその次のステップがありますが、まずは生命を守るという、その一時避難という考え方には今おっしゃったように、例えば高い建物とか、あといわゆる協定を結ぶことが可能であれば、比較

的階層の高い建物を持っている民間事業所やマンション、そういった選定も場合によってはあるので、その辺を一時的に避難場所として協定を結んでいくとか、いろいろ手法はあるかと思うので、地域の方々がある程度の、一定の時間の中で避難できるような場所、候補地を探しながら見直しをかけていくことは恐らく必要なのかなという気がいたします。

これに関連して何かご意見、よろしいですか。

○西内委員

私も鹿島の町内に住んでいるのですが、一番近くに体育館、交流センターがあるのですが、ハザードマップにひっかかっているということで、そこがだめらしいんですね。でも先ほどおっしゃっていただいたように、一時的にそこに避難していただいて、高齢者もいるので、遠くまでちょっと連れて行くには大変なんですよ、皆さん。だから、一人暮らしの方もたくさんいらっしゃるんですけど、近くに行けるとすればそこしかないんです、私たちの地区は。一応そこに避難していただいて、それからあとは行政の方でまた移動してもらうという格好というのはとれるのかなと。もしそれができればうれしいなと思いますが、いかがなものでしょう。

○小金澤氏

私、現地を見ていませんが、調査しなくてはいけないのは、その建物がどれだけの人を収容できるものなのか、その建物自体に安全性があるのかどうか、そこもチェックしなければいけませんね。防災計画というと必ずその避難場所となるべきところのスペースや、その施設がどういう機能まで持てるか、追加するにしてもそれをチェックします。ただ、恐らくキャパがあると思います。どこまでの方を受け入れるかとか、どのエリアまでとするか、その辺りの調整も恐らく必要になってくると思いますので、全体的に、鹿島全体で同様のレベルの議論をしていただくような形がよろしいのかなという気はいたします。

○鹿島区地域振興課長

今のちなみに、ハザードでかかるということをご理解の上、ただしです。街中に雨が降って集中すると水の抜けるところがありません。そうすると迎えに行くということが出来なくなります。極端な言い方ですと、それでも良ければということになってしまうので、そういうところを今度避難所にも出来ないのと、実を言うと、かしま交流センターについては、万葉園さんはセンターよりももう1段低いので、そういった場合には一時的に万葉園さんの方を置いて、万葉園さんは自分の責任ですぐにその方々を搬送しますという条件つきで運用しております。ただ、市のほうで今度そこを避難所とすると、雨をしのいで当分の間居るとなった時に、そこまでの対応が今度できるかという問題と、そのまま住民の方もいるということは、

多分なんであんまり言えませんが、交流センターより体育館が1メートルぐらい高いので、体育館そのものに人がいることは可能なのかなとは思いますが、今度は出入りが厳しくなっていくという状況もあり得るので、避難所にするとしても、長期化すると、搬送することがなかなか難しいのではないかとということで、厳しいのかなと思います。

○小金澤氏

基本的にハザードの中に入っているということですので、やはり問題点があるわけですね。もちろんそういったことが起きないことを願うしかないのですが、ただ本当に冒頭話したように、全国どこでいつ大雨が降るかわからない気象状況になっていますので、備えあれば憂いなしなのですが、やはり1番大事なことは、皆さんご存じのように、とにかくまずは避難するということです。避難すれば何とかあります。しかし、避難が遅れると大惨事になりますので、そこは今後の課題であり、これはもう南相馬に限らず、全国の自治体さん共通して考えているところではあります。引き続き、この協議、議論はぜひやっていただくべきことかと思えます。

すみません。先に進めさせていただきます。

それでは4柱目、「明るく環境にやさしいまち」ということで、これも重点プロジェクト、行政と皆さんとの連携の中でやっていくものが多いかと思いますが、これにつきましても、ご意見等ございましたらお願いいたします。

○江袋委員

防犯カメラ等の設置とありますが、これは具体的に、どの場所を今検討しているのか、どう考えていらっしゃるのですか。ただ、むやみにやっても余り効果的ではないですし、学校周辺と、あと通学路を重点的にするとか、何かそのような計画はあるのでしょうか。

○鹿島区地域振興課振興係長

今現在、鹿島区内にも設置しているところがございますが、具体的な、例えば通学路を優先的にするとか、今のところ計画としてはない状況です。ただ、当然ながら実際設置するとなれば、今後、江袋委員がおっしゃるように、むやみやたらに付けるといわけにはいかないで、やはりそこは効果的なところを考えながら計画的にやっていくように、行政として行いたいということですが、今の時点では計画はない状況でございます。

○鹿島区地域振興課長

今鹿島には6ヶ所、防犯カメラを備えてあります。基本的に交通事故等の起きやすい所と、あと駅。どちらかというと通学路よりは交通量の多い

交差点等ということでの防犯カメラの設置になっておりますし、ここに挙げてあるというのは、今後、その場所を特定せず、防犯カメラは必要ですということから、設置をしていかないといふことです、今お話あったように、学校周辺から進めていく方がいいというご意見をいただければ、今度は学校周辺も含めて検討していきたいと考えております。

○小金澤氏

いずれにしても、段階的に、徐々に整備していくということですね。
ほかに意見ございませんか。

○加藤副会長

公共交通の充実という項目の中に、使い勝手の良いデマンドタクシーの早期実現とあるのですが、今鹿島では民間がＪＡと、あと福島交通と個人のタクシーが１軒あるわけですが、今実施している中で買い物や病院という事は鹿島でもできると思いますが、私は原町に行きたい、相馬に行きたいという場合の使いやすさという意味なのか、それとも安くするという意味なのか。民間のタクシー会社を使えば、医者代、治療費を入れると１万円では上がらないという意味だと思いますが、これはどういう意味でのことなのかとと思っているんですが。

私が出したというのもあるのですが、いろいろタクシー会社に、万能車を購入したらどうだと言ったら、私らもできればこういうことをしたいんですけども、民間の運送会社なんですと、こういう風に言われると、自ずとどちらも殺さずではだめだなということを言われたんです。だから、テレビで言っているように庭先から庭先まで送り迎えというのはいいと思いますが、ただ、その金額をどのようにするか、どう考えているのですか。

○鹿島区地域振興課振興係長

こちらは先程少し話しましたが、今現在、市ではみなタク制度という、デマンドタクシーの一形態ということで独自にやっています。距離に応じて、普通にタクシーを使うよりは３～４割安い金額で使えるデマンドタクシーではありますが、その地域によって金額がバラバラ、それから鹿島の方は鹿島区のための移動と、鹿島の町中と自宅を結ぶという制度だったと思います。これも市でいろいろ、先程、加藤区長からもお話がありましたように、例えば民間業者を使いながら、民間業者が潰れるようなことにならないようにですとか、いろいろ考えて、今の制度設計がなされていると思います。ここに載せたのは、それらも踏まえて、去年委員をやっていた方はご存じですが、やはりみなタクのことで議論になっていたところもありましたので、行政も含めて、今後市民の皆さんが使い勝手のよいものかというものを検討しながらということで、早期実現という言葉を入れましたが、あくまで中長期的に検討していくものと考えてございます。でき

るだけ早く実現したいという思いも込めての早期実現という言葉を入れておりますので、それが実際今のところ、本当に値段が安い方がいいのか、今、加藤委員がおっしゃったように、高くとも原町相馬に行けるようにした方がいいのか、様々なパターンがあるかと思います。そこはここに載せることで、検討することが大事だということを示したいと考えてございますので、具体的な事業はこれからということで、今やっているものを少し改善できればなというふうに思っております。

○鹿島区地域振興課長

すみません。これ、我々で多少修正しています。地域協議会委員の皆さんで作っている計画、地域ビジョンですので、こうしようと言ってもらった方が、この計画に載せ易くなって、より進んで、これをこうしようとか、具体的にになったほうがより実現性がありますし、より市の総合計画にも盛り込んでいけるという部分がありますので、デマンド交通の実施と言ってもらえれば、その方がいいのかなと思いますので、その辺りも含めてご検討お願いできればと思います。

○松野委員

一体感醸成事業は、鹿島区での10億円、高速道路料金の助成で残った分を鹿島区のために使うというお話だったと思います。今、加藤さんから話があったデマンドタクシーは、振興係長から説明があったように、距離的にいくらですよということでやっているわけですが、醸成事業をプラスして、デマンドタクシーに充てられるのかどうか、やりましようと言ってもお金が先だから、例えば、市で距離的にいくらですよと、それに10億円のうち高速道路の残り、これをこのようなことにも使っているんだと言われるならば、そういうこともいろいろ考えられるが、それはダメだとなると我々もちょっと考えをここで出せないのかなと今、感じたのですが。

○鹿島区地域振興課長

今の件に関しては、鹿島区で検討会議をやっている話ですので、その中でこの話が出て、これをやりましようということになれば、それはそれで実施事業の一つとして、目玉としては挙げられるかと思います。それと切り離していただきたいのは、こちらはビジョンですので、今後それをやる、醸成事業のお金を当てにしなくてもやるのかどうか、やらなければならない課題であってやる必要があるということであって載せていただくというふうにして分けていくので、10億円の醸成事業はそれで今検討をしておりますので、そこを分けて考えていただければ助かります。それは、南相馬市、鹿島区の一体感醸成で鹿島区の事業ということになっておりますので、そちらでどうしても、やる必要があるという判断の中で、みんなで検討会で議論した上で提案が出てくればまた別の問題になってくると思いますし、

こちらですと長期的に、いわゆる市の施策として、事業を展開していく事業として挙げたいというふうに考えますので、その辺を分けていただければと思います。

○松野委員

わかりました。そのような事で、前から鹿島の地域ビジョンづくりということでいろいろ項目を出して、最終的にこの重点プロジェクトということでまとめたのだと思うのですが、この中で、やはりこのデマンドタクシーもやってもらいたいということで挙がって、全部の事業は出来ないから、その中で最終的には重点プロジェクトということでこの事業はやってもらいたいということで、我々は考えていると思います。

○小金澤氏

いずれにしても、このデマンドタクシーを導入するということは、これはシステムの問題ですよね。継続しますんで、今おっしゃった基金をそこに投入するともったいないので、それは皆さんだけで享受された方が、または他のことで享受された方がいいと思うのですが。

○松野委員

私は、短期でも中期長期でもやはり事業にしてもらいたい、そういうことで我々の考えからこの案を出したのならば、ぜひ実現してもらいたいと思います。

○小金澤氏

そういうことですね。わかりました。

いずれにしても、デマンドに関しましてはやはり住民の方と言いますか、委員の方々から強く要望があったということであり、これは日常生活に影響しますので、しかも継続したものですので、皆さんの使い勝手のいいものでなければ意味がないわけです。ですから、皆さんの要望を踏まえた中で、このシステムで大体そういった検討をしておりますので、地域によっては定額制とか、距離制とか、いわゆるタクシーと同じような使い方、あと相乗りするとか、それからリクエストに応じてダイヤみたいな形で時刻表をつくって、なるべくその空き時間をうまく利用するとか、いろんな仕組みがありますので、鹿島に合った形を、全国の事例も含めて恐らく検討していく形になるかと思いますので、ぜひ今後、ご協議いただくということでよろしいでしょうか。

他にございませんか。今、デマンドのお話いただきました。それから防犯カメラの意見もいただきました。

あとは事務局に私からの質問をよろしいでしょうか。ガスモデルの研究は現状ではどのような感じなのでしょう。

○鹿島区地域振興課振興係長

今日、提案した委員さんが欠席なのですが、民間レベルで勉強会をスタートしており、いろいろな団体が主体になって勉強している途中のようです。行政側にも少しずつアプローチが入っている形で、ただ行政がすぐ取り組むというところまではまだ行っておりません。どちらかというと民主導になっているのかなと今認識しております。民主導が大きな力になって行政を動かすようなことになるのであれば、ここに掲載して、先程、行政でと言わなかったのは、これは住民の皆さんが独自に勉強しているので、そこから持ち上がってくればいいかなという部分がありました。ただそれが、行政でできるのかどうかはまた違う問題になるので、中長期、出来れば長期の方になるのかなという考えで挙げているところでございます。

○小金澤氏

概念が違うかもしれませんが、地域エネルギー的なレベルで、恐らくお考えなのかなということで、当然個人ではできませんし、それに関連する企業の連携でいかないと成り立たないかなということで、ちょっとそのお話を伺いたかったわけです。

○鹿島区地域振興課振興係長

ごみ減量ということが多分主体になってくるのかなと思います。ごみをエネルギーに換えるという観点から勉強を始めているという話でした。

○小金澤氏

そういう取り組みが自発的に起こってくるということは非常にいいことだと思います。また今後そういう話が進めば、お聞かせいただければということで、先に進めさせていただきます。

それでは5柱目の「地域に学び育つまち」につきまして、ご意見ございましたらお願いいたします。

○佐藤委員

この民俗芸能発表会というのを市で年に1回ぐらい、ゆめはっとで各種団体、子供の踊りとかいろんな神楽とか、いろいろ発表する機会があって、塩崎地区の方でも獅子踊りで参加しているのですが、この発表を見に来ているお客さんは、その参加している家族の人だけで、孫たちにどうだったと聞くと、誰も見ていないというか、お客さんがいない。そういうところで、子供たちは何日か前から随分練習して、リハーサルまでして行きますが、行って発表しても、やりがいがないというか、その発表大会の趣旨というんですか。ただ行って発表するだけという感じで、それは何年か前に

もゆめはっとでの大会を2回ぐらい、獅子踊りで孫たちが出てるのですが、やはりそういうような状態なので、もっとその民俗芸能発表会をやっても、みんなが集まられるところで発表できれば、やったほうももっとやりがいがあって、頑張ってよかったなというふうに思うのではないかと思います。誰もお客さんがいない、みんな身内だけ、出ている人だけの中でやるというのは何かかわいそうではないかなと思います。挨拶する偉い人たちもあいさつが終われば帰ってしまう、そんな中での発表というのはどういう趣旨で発表になるのかなと思います。その辺りももっと検討した方がいいのではないかなと思います。

○小金澤氏

私から質問でいいですか。なぜ来ないと思いますか。

なぜ関係者の親族しか集まらないかって、恐らくそこだと思います。うちの近所も含めて、いろいろなところでいろんなイベントをやっているのですが、おっしゃるように、やはり大体は発表者のおじいちゃんおばあちゃんとか、親戚の人が動員させられて、自分の子どもの発表が終わると帰ってしまう、その入れ替わりがあるから逆に満席であっても、うまく皆さんが機会均等で座れるのかなと思いますが、確かに、関係者以外の方が余り集まってないというのは、これは鹿島に限らず、全国もそうなんです。なぜかなというのが多分課題なんですよ。おっしゃるように、やはりどうせやるならば、少しでも皆さんに文化とか芸能を共有していきたいという働きかけを、少し視点を変えていく部分が恐らく必要なかなと、まさに今日こういったところでご提案いただいていて、このビジョン、それから場合によっては市というレベルでもいいのですが、南相馬、鹿島っていうものをもっともっと、こういう伝統文化、それから新しい芸能が動いているんだということを、パフォーマンスを含めてアピールしていくような機会をつくるというきっかけとして、リセットするいい機会かもしれません。非常に安直な考え方の中には、客寄せを呼ぶというやり方があります。ちょっと有名な人とか、恐らく芸能でもいろいろなジャンルがありますが、毎年同じ人を呼ぶのではなくて、幾つかのカテゴリーに分かれていたら、ローテーションでこれに長けた人、それは地元でもいいし地方でもいいし、客寄せパンダと言ったら怒られてしまいますけれども、少し思考を変えて、皆さんに注目させるような広報の仕方、パンフレットを作るにしても、ポスターを作るにしても、それで少し動員の数が2割3割増えるかもしれません。急激に増えないでしょうけども、おっしゃるとおり、やはり皆さんで一生懸命やられているのに、精がないですよ。やった上には何か身内ばかりでというところがあるので、少し裾を広げていく、そのためには事前の広報も含めて、例えば、芸能の、もしくはイベントの行事、踊り、そういったものの歴史背景みたいなものを、すでにやっているかもしれませんが、少し紹介していくとか、少し紐解いて、あまり専門書

みたいにグダグダ書いていくと読まれませんので、何かこう訴えるものを少し作っていくことで観覧者が少し増えるかなと思います。急激に増えると思いませんけど。これを契機にぜひ、これはもう行政がどうという話ではありません、やはり皆さんが主体、主役でやっていくものですので、皆さんの中でやったものを見ていただきたい、評価していただきたいという取り組みを少し皆さんで、違う部分で考える場所が必要なのかなという気がいたします。少し余談ですが、以前お話したかもしれませんが、観光という観点からすると、今、圧倒的に多いのは中国、韓国、台湾や香港、そういった方々が日本に来る時は、ご存じのようにグルメと買い物が目的です。ところが欧米人の来日目的は大体歴史文化なんですよね。そういったものに非常に興味を持っていて、欧米はもともと食文化が東南アジアの途上国より優れていますので、今日本食は非常に流行っていますけども、もちろん日本食も目的であるのですが、やはり日本の歴史文化というものには非常に興味を持つということで、そういったところを鹿島に限らず、もっと広域的な視点も含めて、地域の中に再度作り上げて、それをアピールしていくということも必要なのかなという気がいたしますけど、何か目標があると頑張れるんですよ。そういったところも必要なかなという気はいたします。

○松野委員

今、佐藤委員の話で感じたことですが、今日は鹿島の地域ビジョンの話ですが、今の芸能発表会は南相馬でやっています。鹿島地区だけではなかなか大変だと思うのですが、それで今考えたのは、やはりこのビジョンから外して、歌謡発表会、先生方が無料で教えていて、この先生方とタイアップして、例えば、この間に入れてもらうとか。先生方の無料の発表会の時はゆめはっかが大体いっぱいになるようです。これがプロ歌手だと間には入れないでしょうけど。プロ歌手だと5,000円、いい歌手だと6,000円出したって良いからその券を買うのに並んでいるという時代だから、やはり時代が変わっているのでしょうけど、無料の南相馬の歌謡発表会の時に、練習したのをところどころに入れてやってもらうということもいいのではないかと思います。そうでないと練習して、行っても家族だけしかいないから、普通の歌謡発表会には市長さんも必ず挨拶に来るようだから、この辺りも含めて今佐藤委員さんの話を聞きながら、今度はビジョンと違ったやり方を考えていただければ、ずっと存続するのかなと今考えました。

○小金澤氏

いろいろな皆さんのアイデア、知恵を集めていくとだんだん変わっていくと思います。恐らく、そういうことが地域ビジョンの策定の目的でもあると思います。

○遠藤会長

お聞きしたいのですが、芸能発表会は南相馬市でやっているということですよ。違いますか？

○西内委員

芸能発表会というのではなくて、出ているのは民俗芸能発表会のことで、伝統芸能です。

○遠藤会長

それは南相馬市内、市内の全体ということですか。

○西内委員

全体のです。

○遠藤会長

これ、鹿島区のみでやるということはないんですか。

○西内委員

鹿島区のみではやらなくって、南相馬市全体でやって、神楽が多いです。私たちのところも出ています、踊りの方で。それで伝統ではなくて、地域でやっている踊りで応募しようかということで応募したんです。そしたら発表の段階でいろいろ評価する先生がいらっしゃったんですね。その方が、この、例えば相馬胴突き唄だったら、こういう流れがあってこうなりましたということで、来て説明して下さって、その時私は初めて出たので、どれぐらいの人が集まっているのか全く分からなかったのですが、ある毎年来ている人が、今日はお客さんが多いぞという話をしていて、どれぐらいお客さんが多いのかと思って見てみたら、半分以上客席が埋まっていた、その時は。それで、毎年のは分からないので、これで多いんだと感じていたのですが、毎年はもう少ないって言ってたんですよ。で、この時私たちの踊りは異色の発表ですって言われました。だから伝統ではないんです。そこで変化球みたいなのを投げたから、たぶん来てくれと言われたのだと思ったんです。

○遠藤会長

地域の芸能や伝統文化的なものはどんどん廃れていくというお話が、多分この協議会でも随分出ていることだと思って、鹿島の桜平山には発表する場所と、それを練習していく場所と両方使える場所があるんだと思っておりました。発表する場所ならさくらホールを使うというので、何かしらその底辺の拡大と言いますか、文化の継承と併せてここで発表できますよという、何かそういうようなものを併せ持つて考えていけば、いいのでは

ないかと思ったりもすると、先程違う面で桜平山の話をしようと思っていたのですが、トータルして桜平山にいろいろ関わってくるのは、あそこはいろんな面で使う場所なんですよ。あそこの1番まずいのは、路線が1本しかないっていうこと、大量に上に、当然さくらホールでたくさんの人が集まると500人ぐらい入りますよね。そうなった時、今度出ていけないんです。登って行けない、出ていけないという状況が多分いろんな面であります。昔PTAだったならばそこで廃品回収の集め方をやっていた時もあるって、大量の車が上がってくると今度降りるに降りられなくなるというのはいつも問題になっております。この桜平山の整備や公園の整備を含めて、導線のもう一本の確保も入れていただいた方が、これは避難場所にもなっているはずなので、下で詰まってしまうと上がれないという避難所になってしまいます。そういうことも踏まえて考えますと、桜平山の整備というのは、ただ公園の整備、だいぶ傷んでいるところが多いし、人にここがそうですよと言えない場所がそうだったりするという話を昨日聞きましたが、そこも含めて、これは中長期になるでしょうが、ビジョンに入れておいてもらった方がいいのではないかなと思っていました。その上で芸能発表というのは、元々はやはりその文化の継承と、今こういう文化が鹿島にあるんだということを広めていくのと、若い子供たちにそれを見せて、それを継承してという場をつくるというふうになるのではないかなと思いました。

○小金澤氏 ありがとうございます。これに関連しまして、その他、ご意見、よろしいでしょうか。

○星委員

鹿島でやっている、さくらホールで、年に1回、6月の最終日曜日に芸能発表会があるのですが、私は、舞踊の方で出ておりますが、本当にお客さんがいないです。がっかりするぐらいに。1年間練習して発表すると、全然いないよねなんて。それで、フラダンスとかがかなり多くて、お年寄りにはあんなフラフラしたのを見ることないって、あとはカラオケですかね。1番最初ジョリジョリー (Joli-Jolie) って孫達が踊るから、そのときは若いお母さんたちが子供の付き添いで来るから結構いるんです。でもジョリジョリー (Joli-Jolie) が終わると、みんなバーツと帰ってしまって、あとはカラオケを歌ったりするともう本当に客さんいないんです。そしてまた、なぜか6月最後の日曜日と決まっているのに、市のほうで何か行事があるんですね。いつも何か重なって。なぜ1年間で決まっているのにそういうのをやるのかなって、みんな不満に思っているんですね。

○小金澤氏

それは前々回、私パワーポイントで事例紹介した中にも実はそういう話

がありまして、その時は清掃の話でした。伊豆地域だったのですが、地域の方が清掃を定期的にやろうと、それでいざ集まってやろうとしたら、綺麗なんです。よくよく調べたら違う団体が前の週にやっていたというんです。そういう情報が全然地域になくて、これはだいたい全国どこもそうなんです。それでカレンダーを作ったんです。これは別な事例でご紹介したのですが、地域には、例えば花植えが得意な方とか、イベントの得意な方とか、いろんなボランティアだったりNPOがあり、そういう方々の情報をデータベース化してつなげていくと、結構いい情報が集まってきて、重なることを避けたり、逆に重なるときには共同してやるという具合です。例えば、小高でも原町でも同じテーマのものを一緒にやることによって、場合によってはお客さんが回遊する、一つの例ですが。そのように逆に一緒にぶつけてやることによって、集客力を増して広報力、PRも強くするとか、そういうところの調整を住民間で行っているわけですね。その辺の情報を一元化していく、そういった仕組みをつくると、かなりまた違ってくると思います。恐らく次の「活力あるコミュニティのまち」という柱にもつながっていくでしょうし、場合によっては1本目の柱である「地域資源を生かす」という、いわゆる産業振興にもつながっていくということにもあるのかなということで、なるべくこれから、そういったことがないように、または逆にそういったものに活かすような形で皆さんで情報共有するような場をつくり上げていくということは非常に重要なかなと思います。現に私もいろんな実験をやった中で、国の社会実験などがあった中で、やはりそれが地域として、その時6つの市町村が連携したのですが、仕組みができ上がると、あとは皆さんで継続してやっていけるんです。そういうスタートのお手伝いを我々もしましたけれども、それによって連携というものが生まれてきて、単に点だったものが線になったり面になったりするんで、今日がある種キックオフかもしれませんが、こういった動きの一つの投げかけとして、この地域協議会を活かせればいいのかなと思いますので、先ほども地域振興課長がおっしゃったように、どんどん意見を出してもらって、やろうという声を聞ければ、太字で地域ビジョンに活かせると、そういったところが今日の取りまとめの主旨でございます。

最後の6柱目、「活力あるコミュニティのまち」づくりということで、これにつきましてもご意見をいただきたいと思います。

○小倉委員

中長期計画のところに敬老会を区全体で実施となっていますが、今現在、敬老会を地区単位でやっているのは八沢と上真野だけと聞いておりますが、それが区全体でまとまるのに何の障害があるのかがよくわかりません。区全体でやりましょうと誰が言い出せば出来るのですか。

○鹿島区地域振興課振興係長

実は若干答えに窮する部分があります。震災後、今は上真野と八沢のまちづくり委員会の方々が一生懸命やっています。震災前は市で、原町・鹿島・小高でやっていました。震災後、ドタバタもあり、市でやらなくなって、地域でやってもらう方向に市では舵を切っています。そういった中で、まちづくり委員会という組織が鹿島は幸いして四つありましたので、上真野地区と、八沢地区は率先してやっていただいたというのがあります。例えば、やっぱり区全体で一括でやりましょうと言ったときに、地域のまちづくり委員会が共同してやればいいのか、はたまた行政の音頭とりでやればいいのか、前のイメージですと行政が音頭とりをすればまとまるのかなと実は考えている部分もあります。我々が、市の事業として鹿島区でやりますかって言ったときに、まずそこができないという状況が実はあります。例えば、市でやるのであれば、ちょっと堅い話ですが、予算をどうするのか、業務でどうやるんだということ等がありますので、そういったことで一旦地域に、比較的小さい規模で敬老会をやるという形にしています。それをまた元に戻し、大きい規模でやるとなると、今度その地域の人達の協力を得ながら行政でやるのか、先程小金澤さんが言いました、行政でもスタッフの関係等もあり、鹿島区だけで鹿島区全体のをやるというのもなかなか難しい状況があります。ではどうすればやれますかというのが非常に悩ましくて、例えばそれが、区長さん方とまちづくり委員会の皆さんの協力を得て行政とみんなでやりましょうというふうになるのか、そこが本当は悩ましいんですね。どこがどうすれば動けるのか、正直答えに窮するところです。一番理想としているのは、まちづくり委員会が現在上真野と八沢がやっておりますので、その残りの鹿島と真野も協力し合いながら出来れば、一緒にタイミングでやることもできる、それがやはり市民の方が主導になってやる、それを行政が応援するという形になれば一番理想なんですけど、なかなかそこまでいってないという実情です。なかなか難しい部分もあって、答えになっていないかもしれないですが、そのような状況です。

○小倉委員

ありがとうございました。

○大内委員

今の件ですが、関連としてお話ししますけども、実は鹿島地区とそれから真野地区が今敬老会をやっていません。今、福祉関係で、鹿島地区と真野地区の人たち、大人のお楽しみ会という、名前を変えて9月にやるのですが、毎年敬老会がないので、今そういった形で70歳以上の方、真野地区、鹿島地区、民生委員にその話があって、あと広報でも出していると思いますが、いわゆる70歳以上の方に呼びかけて、場所に来てもらって、そこで

いわゆる芸能のほうでも何でも、あるいは幼稚園の踊りでもそういうのをやって、午前中で終わって、お土産を若干配るという形で今やっています。敬老会があれば1回で済むのでしょうか、今はそういう敬老会に代わる形でやっています。敬老会、鹿島地区と真野地区だけがなぜ実施しないのか、その辺りは私はわかりませんが、そういうことです。

○小金澤氏

要するに名前は違っていても、やっているようなこと、機能的には一緒なんですかね。

○小倉委員

はい。各地区の状況としてはわかりました。各地域にまちづくり委員会があるというのはわかるのですが、その横の連携は今のところないと考えていいですね。ということは、まちづくり委員会、例えば八沢から上真野さんにお声掛けをすとか、上真野さんからお声かけいただくとかという形で、横の連携ができていけば民間というか、市民レベルからの実行委員会の立ち上げ、そして、例えば、一番身近なさくらホールでの区全体での実施に至ることができるというふうに考えていければ、一番幸せの道ですかね。

○鹿島区地域振興課振興係長

そうですね、横の連携がとれてないということ、確かにそれも一つの原因だと思います。それで、過去に、敬老会ではないのですが、鹿島地区と真野地区のまちづくり委員会で、のど自慢大会を一緒に行なった経過も実はあります。ですので、多分出来ないことではないのかなと、それを上真野、八沢は独自に敬老会もやっているの、そこを何とか協力する環境を、行政でも整えながらやれば、出来ていく可能性はあるのかなと思っております。あとは、そこをどういうふうに応援していくか、やはり鹿島では鹿島区一体でやってくださいという声もありますので、それを行政としてどういうふうに応援できるかも含めて検討し、実施できるような環境を整えていけたらなと思います。できれば、今本当に福祉の方も頑張っていて、いろいろ地域でやっていただいている部分もありますので、せっかくこのような方向になってきているところを、あまり行政が手を出してしまうと、せっかくの火が消えてしまう部分もありますので、そこは何とか上手くやりたいなと考えております。

○小金澤氏

先程と少し主旨は違うかもしれませんが、やはり住民の方々が地域の方々が同じ目的で、ベクトルが同じであれば、情報共有して連携すると、1つが2にも3にも、掛け算になっていきます。そういった環境を醸成で

きる方、地域に絶対必要なのがこのキーパーソンなんですね、そういった方が10人いる町と100人いる町と1,000人いる町と、全然動きが違いますので、今日お集まりの皆さん、まさにそのキーパーソンなんですが、やはり地域の方々に元気のある方々、将来を描ける方々に1人でも多く集まっていたら、かなり違った展開があるのかなと思います。ですから、敬老会同士も、横のつながりを持っていただけるような方々が、声をかけ合うと、自分たちで全てやるとするとかかなりの労力が必要ですが、いい意味で連携すると初乗り料金がいらないと言いますか、そこから相乗効果が生まれますので、いろんなノウハウ、いろんな楽しみ方、いろんな知見も皆さんお持ちなので、それらをお互いに出し合っていくことが大事だと思います。何が何でもおれがおれがという人ばかりではないと思いますので、ぜひそういった連携ができるような環境づくりを、この地域協議会がそのキックオフの場であったということで、これからの鹿島のビジョンはこれまでとは違うんだというところを、ぜひこの中に書き込んでいきたいなと思います。

これでとりあえず六本柱につきましてお話を伺ったことになりますが、改めましてもう一度全体を見渡して、忘れていたとか、今、いいこと、アイデアが浮かんだとか、そういったことがございましたらぜひ、最後に向かっていただいて、ビジョンの改訂版の取りまとめをしたいと思います。

○松野委員

敬老会の話で聞きたいのですが、震災前は鹿島でも体育館でやっていて、私の考えだと、震災で体育館が壊れて、鹿島では出来ないからまちづくり委員会と言って、八沢・上真野地区でやっているんだとばかり認識していて、それで原町はゆめはっとでやっているって聞いたんですが、今は違うのですか。

○鹿島区地域振興課振興係長

今はやってないです。

○松野委員

今やっていないのですね。今原町はゆめはっとでやっていると言っているから。そうすると原町は原町で、まちづくり委員会で地区ごとにやっているということですか。

○鹿島区地域振興課長

もう、行政では小高も原町も鹿島もやっていないです。その上でやっているのは、原町ですとひがし生涯学習センターと太田、今分かっているだけです。

○鹿島区地域振興課振興係長

まちづくり委員会でやっているところと、あとは原町ですと地域の福祉委員の方々がやっています。

○鹿島区地域振興課長

生涯学習センター単位に集まった各種団体があって、その組織を中心にやっているのが太田とひがし生涯学習センターと聞いています。それで小高は今はやっていません。原町もその2つですか。あとプラスどこかやっているかもしれませんが、情報不足ですみません。今やっているのはそういう団体を作って、組織を作ってやっていると聞いています。

○松野委員

だとすれば、まちづくり委員会から申請はしているんですよね。載せるとすれば、この中で鹿島区で敬老会をやろうということの話をしないとダメだなということがわかりました。

○小金澤氏

ほかにご意見はありますか。

○濱名委員

一気に若い子たちの話になるのですが、私たち子供の時代は夏休みに1泊2日か2泊3日でお寺に行って何かしたと思います。この、一つ前の柱の「地域に学び育つまち」、子供の生き抜く力というので、今の子たちはマッチも点けられない子も多いし、あとスポ少とかそういうので忙しくて、自分たちで何かをやるということが少ないと思うんです。昔でいうと、火起こしや、そういうようなことを一生の内というか、小さい内に1回2回体験していれば、何かの拍子に、今何が起きるかわからないので、そういう経験をしておいた方がいいかなと思います。みんな全然関わりのない、スポ少ならスポ少だけの生活、学校なら学校だけの生活とか決まった中なので、地域から集まって、募集かけた人たちで、ご飯を作ったり、カレーを作ったり、基本生きていく中での基本だと思うんですよね、そういうことが。あと、草をむしったり、朝少し掃除したり、ゲームは禁止とかテレビのない生活、そういうのを小学校の内で1回2回ぐらいあってもいいかなと私は思います。

○小金澤氏

特に今の子供には、掃除させるのが大事なんですよ。親がやってくれてきれいな環境が当たり前ではなくて、きれいにしていくことによって気持ちよくなるという、一つの例として、そういったところから始めていく、また、これは日本に限らないかもしれませんが、例えば池があると危ない

からフェンスを作る、アメリカはないんですよ。落ちたら自己責任なんです。鉛筆をナイフで削れない子供がいっぱいいるとか、切って初めて痛みを分かって、だから防御的なものが身についていくのだと思います。そういう経験をさせることも、林間学校でなくとも、地域でそういうことをイベントとしてまずはやっていくことによってきっかけが出来ると思います。先程少しお話ししたような、6つの市で連携したときにも、実は子供さんを集めるブースに、地域の年寄りが昔から持っているような技、例えば竹馬をつくるとか、ベーゴマを回すとか、もしくは竹細工を作るとか、昔から遊んでいたいろんな遊具を、おじいさん、おばあさんが主役になって子供たちに見せて、それを伝授するという、そのような企画もやってみました。かなり子供たちが集まりまして、そういう場でまたその地域のコミュニティとか、年齢を超えたコミュニティが出来ましたが、人間にとって年齢差があるつき合いついて刺激になって非常にいいんですよ。双方が刺激になっていい。そういったものが、昔ながらの祭りの再現という言葉に含まれるかはわかりませんが、地域・大人はそれに対して子供に口を出すよりも見つめてあげて、子供を育てていくこと、大人がすぐ手を出して助ける、手をかけるのではなくて目をかけるような教育、育て方を地域の皆さんで見守っていく、そんな環境をつくっていくのが非常にいいと思います。

ほかにご意見等ございましたら、よろしいでしょうか。

皆さんから本日いただきました意見を基に、ボリューム感といいますか、その重要度というものを少しトーンを変えながら少しブラッシュアップさせていただいて、最終的に事務局の方でまとめさせていただき、それがまとまった段階で皆さんへということでよろしいですね。

それでは、一応これで事務局の方にお返しします。

○鹿島区地域振興課振興係長

今後のスケジュールですが、今、小金澤さんからもありましたように、本日いただいた意見も踏まえまして、再度まとめに入ります。次回、10月の協議会、10月の協議会を予定して、その間までにまとめるとともに、先ほど申し上げましたように、これまで各種団体の皆様と各行政区長さんからもご意見をいただいておりますので、最終案を作りまして、皆様方にも最後のご意見を伺いたいと考えております。行政区長さんには、地域ビジョンと行政区運営の件で個別面談方式の懇談会を予定しておりますので、そちらが9月下旬になりますが、そこで区長さんにはコメントいただきたいと思います。その他の団体につきましては、アンケート方式で、意見があれば自由意見方式のコメントをいただけるような形を考えております。本来であれば今日皆様にお示しして、この形で聞きますとしたかったのですが、後程アンケートでの聞き取りをすることについてご了解いただけれ

ば、事務局で準備して、それを利用して行政区長さんには懇談会で、その他の団体の皆様にはアンケートということでコメントいただいた上で、10月の時にそれらの意見も踏まえて、再度、最終案を出させていただきます。当然ながら、行政内部で、出来るもの、出来ないものの確認を現在並行で行っておりますが、そちらのすり合わせも行った上で、10月の協議会に提出したいと思っております。そこまでの取りまとめを事務局で一括で行わせていただければと思います。最終的に、11月上旬の予定で再度協議会の中で完成版をお認めいただき、すぐに地域協議会から市長への提言という形で、11月の10日前後を目途に進めていければと思っております。このようなスケジュールで今後進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○遠藤会長

ただいま事務局より今後の進め方につきまして説明がございましたが、さらにご意見等がある方、発言をお願いいたします。

大体皆さんの発言が出尽くしたということではありませんが、今後ともまたよろしく願いしたいと思えます。では、次の事項に進んでよろしいでしょうか。

＜委員より異議なしの声あり＞

○遠藤会長

では、(3)のその他に移ります。次回の開催日程について、担当よりご説明をお願いします。

○鹿島区地域振興課振興係長

先程も申し上げましたが次回は10月の11日木曜日、午後1時30分、この区役所大会議室で行いたいと思えますので、よろしくご審議をお願いいたします。

○遠藤会長

ただいま日程案について、ご異議ございませんか。

＜委員より異議なしの声あり＞

○遠藤会長

それでは、異議なしということで、次回は10月11日に開催いたします。

では他に事務局、委員の皆様から何かございますか。あれば挙手の上で発言ください。ありませんか。

＜特に意見がない模様＞

○遠藤会長

それでは、特に無いようですので、これをもちまして本日の議題はすべて終了いたしました。長時間にわたり小金澤先生及び委員の皆様、本日はありがとうございました。

○鹿島区地域振興課長

それではこれで第6回の地域協議会を終了とさせていただきたいと思います。帰り際にはどうぞ交通事故等に注意していただいてご帰宅いただければと思います。本日はどうもありがとうございました。

以上のとおり相違ありません。

会 長 遠藤 賢明

会議録署名人 多田 和夫

会議録署名人 江袋 大輔